

栄養管理学専攻

博士前期課程 博士後期課程

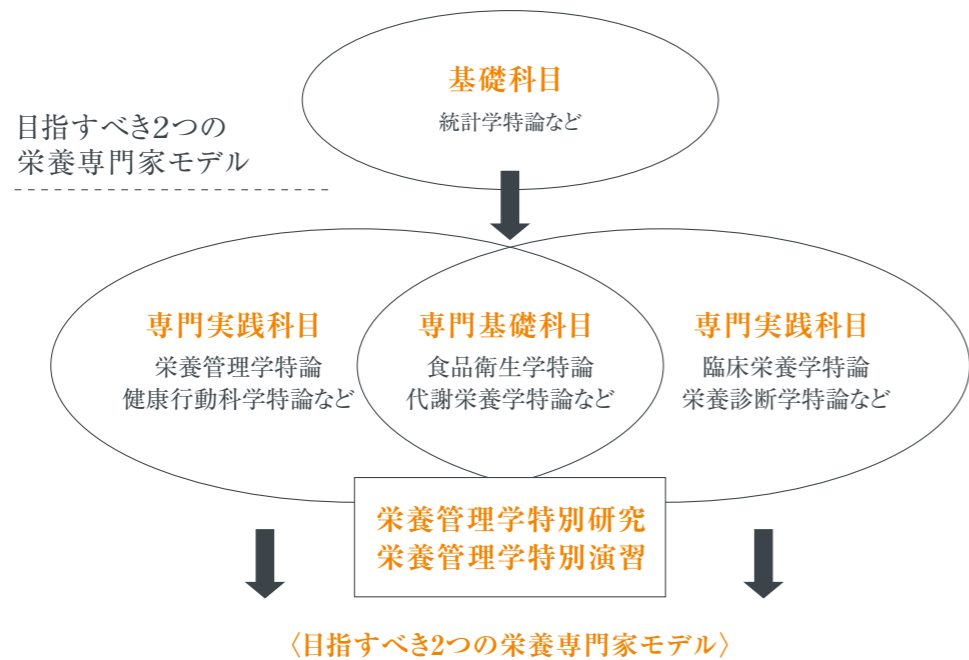
博士前期課程〈修業年限〉2年 〈学位〉修士(栄養学) 〈入学定員〉3名

博士後期課程〈修業年限〉3年 〈学位〉博士(栄養学) 〈入学定員〉2名

博士前期課程

〈取得可能資格〉栄養教諭専修免許状(選択)

学士課程で展開した栄養学教育を基礎としながら、「**人間栄養学**」のエビデンス(科学的根拠)に基づいたシステムティックな栄養管理を実践できる卓越した専門性を有する管理栄養士の育成を目指します。本課程に出願するためには**栄養士免許**が必要です(取得見込みも可)。
※長期履修学生制度の利用ができます。



地域社会で健康づくり・生活の質の向上を支援する栄養専門家

地域社会において、栄養に関わるエビデンスの還元、改善計画立案・実施・評価などを実践する専門職業人を目指す。

医療・福祉の分野で傷病者を支援する臨床栄養専門家

チーム医療などに参画し、他職種と協同して高度な栄養管理能力を有する専門職業人を目指す。

ディプロマ・ポリシー

- ・キリスト教的人間観を基盤に倫理的な配慮を行い、人間の「健康」と「生活」の支援に必要な基礎知識を身に付け保健・医療・福祉に応用できる。
- ・栄養学の専門分野における問題についてグローバルな視点を持って主体的に探究し、連携・調整を図りながら問題解決方法を考えることができる。
- ・栄養学の専門分野における高度な知識を身に付け、研究および栄養管理の実践に適用できる。
- ・栄養学の専門分野における課題について、適切な研究方法を選択し、研究成果としてまとめる事ができる。

カリキュラム・ポリシー

- ・キリスト教的人間観を基盤にした倫理的な配慮を身に付けるために、両専攻共通科目である倫理学特論、人間関係論特論を配置した。
- ・人間の「健康」と「生活」の支援に必要な学修を通して、地域の保健・医療・福祉の現状について議論できるだけの知識を身に付けるために、医療情報・医療経済、地域ケアシステム論、環境保健学、健康社会学、医療人類学特論を設置した。
- ・グローバルな視点を持つこと、連携・調整を図ることの重要性を学ぶために、健康行動科学特論、ヘルスカウンセリング論、国際保健学特論、国際保健学特論演習を配置した。
- ・専門分野での実践と研究を支える科目を開設し、統計学や疫学の基礎理論を身に付け、主体的に探究し研究する方法を学ぶために、統計学特論、疫学、研究方法論特論を配置した。
- ・食品と栄養に関わる問題を解決するうえで必要とされる高度な知識を身に付け、研究専門分野への応用実践力を養うために、食品衛生学特論、代謝栄養学特論、栄養管理学特論、健康・食行動理論、臨床栄養学特論等の専門基礎科目・専門実践科目を配置した。
- ・栄養学の専門分野の知識を深め、それを応用し演習・研究を行い、自ら問題解決を行う能力と研究能力を養うために、栄養管理学特別研究、栄養管理学特別演習を配置し、個別指導体制の充実を図る。加えて、リサーチ・ルーブリックを導入し、学生の自己評価と主任指導教員と副指導教員の評価をすり合わせることで、改善点や課題を明確にする機会を設ける。

カリキュラム

区分	科目		
基礎科目	倫理学特論 統計学特論 疫学	人間関係論特論 研究方法論特論 医療情報・医療経済	国際保健学特論 国際保健学特論演習
専門基礎科目	食品衛生学特論 食品学特論 食薬理学特論 栄養生理学特論	代謝栄養学特論 栄養免疫学特論 地域ケアシステム論 ヘルスカウンセリング論	環境保健学 健康社会学 医療人類学特論
専門実践科目	栄養管理学特論 栄養疫学特論 健康行動科学特論 健康・食行動理論	健康栄養エビデンス論 栄養診断学特論 栄養管理学総合演習 臨床栄養学特論	栄養管理学特別研究 栄養管理学特別演習

〈修了要件〉30単位以上



修了生

栄養管理学専攻
博士前期課程 2022年3月修了
※日本赤十字社 栗山赤十字病院
医療技術部栄養課に勤務

在宅患者の栄養管理に関する研究に取り組みたい

天使女子短期大学を卒業した後、通信教育で大学を卒業し、地域の病院に勤務して20年以上が経過した頃、今まで臨床現場で行ってきたことを形にまとめたいと思い、大学院に進学したいと考えました。病院での勤務経験は長いのですが、研究に関しては全く分からない事ばかりで、不安な気持ちでいっぱいでしたが、大学院は様々な視点を持つことができる別な世界があります。現在、私は勤務先で在宅訪問食事指導を行っており、患者さんが自宅で栄養管理を行うには管理栄養士の力が重要だと感じています。働きながら大学院に通うことは大変ではありますが、働いているからこそ日常の疑問を研究につなげることができると思いました。博士前期課程修了後も、在宅栄養管理をより効果的に行っていくために研究に取り組んでいきたいと考えています。
たくさんの新しい発見と学びがある大学院は、思い切って入学して良かったと、深く感じています。

本課程におけるこれまでの論文テーマについては15ページをご覧ください。

教職課程(栄養教諭専修免許状)

食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し、食生活の多様化が進む中で、朝食をとらないなど子どもの食生活の乱れが指摘されており、子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、栄養や食事のとり方などについて正しい知識に基づいて自ら判断し、食をコントロールしていく「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を子どもたちに身につけさせることが必要となっています。

このため、食に関する指導(学校における食育)の推進に中核的な役割を担う栄養教諭は、地方公共団体や設置者によって配置され、食に関する指導と給食管理を一体のものとして行うことにより、地場産物を活用して給食と食に関する指導を実施するなど、教育上の高い相乗効果をもたらしています。(文部科学省「栄養教諭制度の概要」参照)

本学の栄養管理学専攻博士前期課程においては、次の科目の中からの所定の単位を修得することにより栄養教諭専修免許状を取得することができます。

栄養教諭専修免許状取得に必要な科目および単位数

区分	科目	
基礎科目	疫学	医療情報・医療経済
専門基礎科目	食品衛生学特論 食品学特論 食薬理学特論	栄養生理学特論 代謝栄養学特論 栄養免疫学特論
専門実践科目	栄養管理学特論 栄養疫学特論 健康行動科学特論 健康・食行動理論 健康栄養エビデンス論	栄養診断学特論 栄養管理学総合演習 臨床栄養学特論 栄養管理学特別演習

上表の栄養管理学専攻博士前期課程開講科目の中から24単位以上の修得が必要となります。

藤女子大学との大学院間の 単位互換制度を開設しています。

相互の交流および協力の促進と教育の充実を図ることを目的として、単位互換に関する協定を締結しています。これにより、藤女子大学大学院人間生活学研究科において指定の科目の単位を修得した場合には、本学の授業科目に振り替えて単位を授与することができます。

単位互換対象科目(2022年度)

藤女子大学大学院で履修できる科目	左記科目の本学大学院単位振替科目
食品品質学特論I	食薬理学特論
食品品質学特論III	食品学特論
公衆栄養学特論I	健康栄養エビデンス論

博士後期課程

栄養管理学専攻博士後期課程は、人を対象とした人間栄養学の基礎的及び実践的(応用的)研究を通して、ライフステージや環境、あるいは疾病罹患時における生体機能の変化などを的確に把握し、断片的かつ拡散している高度な「栄養」の専門知識を統合理解することで、今日の栄養学的課題を明らかにし、それらの解決の具体的方策を探り、自立して教育・研究を行い、社会に貢献する人材を育成します。

※長期履修学生制度の利用ができます。

ディプロマ・ポリシー

- ・専門的かつ高度な教育及び研究を通して栄養管理学の先端のおよび実践的な知識を身に付け、保健・医療・福祉に貢献できる。
- ・栄養管理学に関わる課題においてグローバルな視点を持って主体的に探究し、自立して研究を行うことができる。
- ・栄養学の専門分野における課題について、研究をととして課題解決の方法を提示できる。

カリキュラム・ポリシー

- ・保健・医療・福祉に貢献するために、専門的かつ高度な教育と研究方法の学びを通して、栄養管理学の先端のおよび実践的な知識を身に付ける科目として研究方法特論を配置した。
- ・栄養管理学に関わる課題においてグローバルな視点を持って主体的に探究し、自立して研究を行う能力を養うために、基礎系と実践系に体系化し、基礎系栄養管理学特論、実践系栄養管理学特論を配置した。
- ・栄養学の専門分野における課題について、研究を博士論文としてまとめ、課題解決の方法を提示できる能力を養うために、基礎系栄養管理学特別研究と実践系栄養管理学特別研究を配置し個別指導体制の充実を図る。加えて、リサーチ・ループリックを導入し、年に2回、学生の自己評価と主任指導教員と副指導教員の評価をすり合わせることで、改善点や課題を明確にする機会を設ける。

カリキュラム

区分	科目	
共通	研究方法特論	
基礎系栄養管理学分野	基礎系栄養管理学特論	基礎系栄養管理学特別研究
実践系栄養管理学分野	実践系栄養管理学特論	実践系栄養管理学特別研究

〈修了要件〉18単位以上



働きながら学ぶことが出来る環境に感謝しています

大学の助手として勤めていた時、学生をサポートする上でもっと専門的な分野を勉強したいと思い、天使大学大学院栄養管理学専攻博士前期課程に入学しました。長期履修制度を活用し、3年で修了しました。本来であれば、一度退職し、リセットした上で本格的に学ぶというスタイルが理想かもしれませんが、それが叶わない状況、また、どうしても仕事を続けたかった自分にとって、働きながら学べる環境は魅力でした。

そして、3年後に博士後期課程に進み、現在は「北海道産長芋に含まれるプロテアーゼに関する研究」に取り組んでいます。道産食品の代表的な品目である長芋は、漢方などでも注目されている食材ですが、たんぱく質の分解酵素における効果については、科学的根拠は得られていないため、その生化学的諸性質を明らかにし、それをどう活用するかについて研究しています。

現在の仕事は、農学系の大学講師として、農畜産物の利用についての講義や実習を行っています。商品開発においては「健康志向」であることが求められています。管理栄養士として時代に合った消費者のニーズに応えられる提案をし、学生の教育・研究に繋げていきたいと思っています。

在学生

栄養管理学専攻
博士後期課程 3年次
(天使大学大学院看護栄養学研究科
栄養管理学専攻博士前期課程 修了)
※酪農学園大学農食環境学群循環農学類に勤務

本課程におけるこれまでの論文テーマについては15ページをご覧ください。